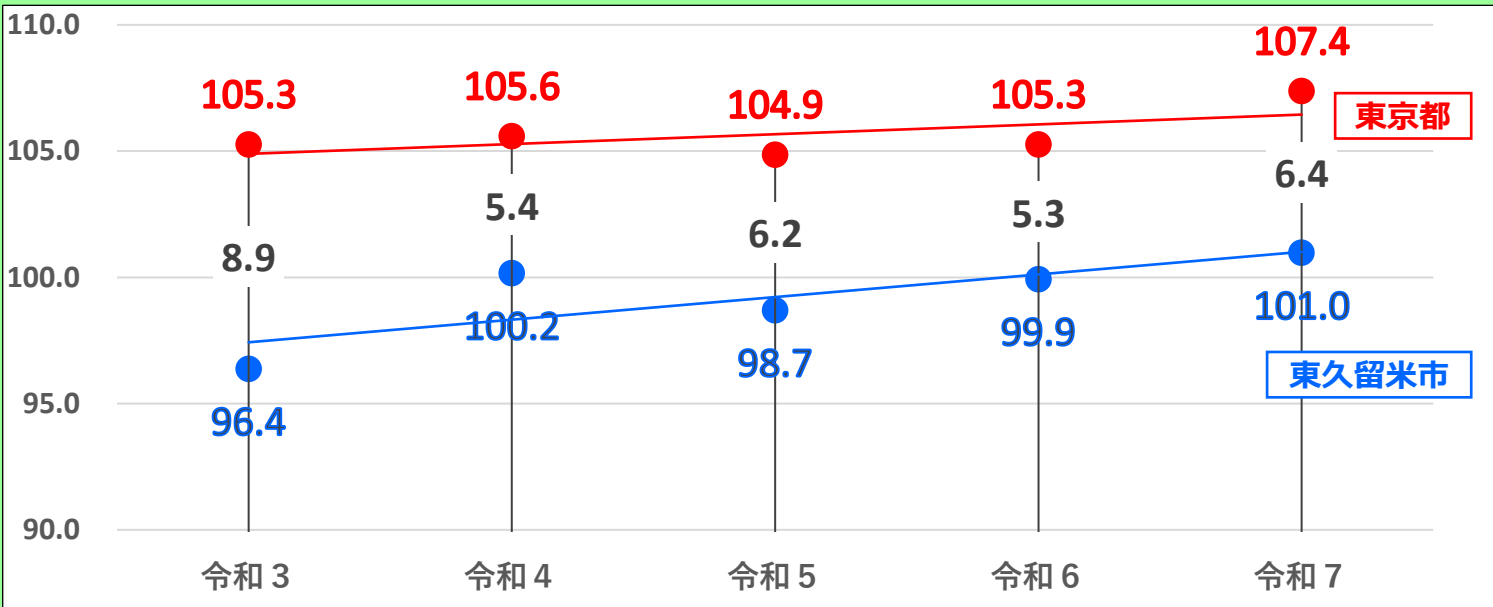


令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてⅡ 経年変化

国語、算数・数学の正答率の合計について、全国を100としたときの東久留米市及び東京都の値を近似線で示し、5か年の経年変化を基に分析した。

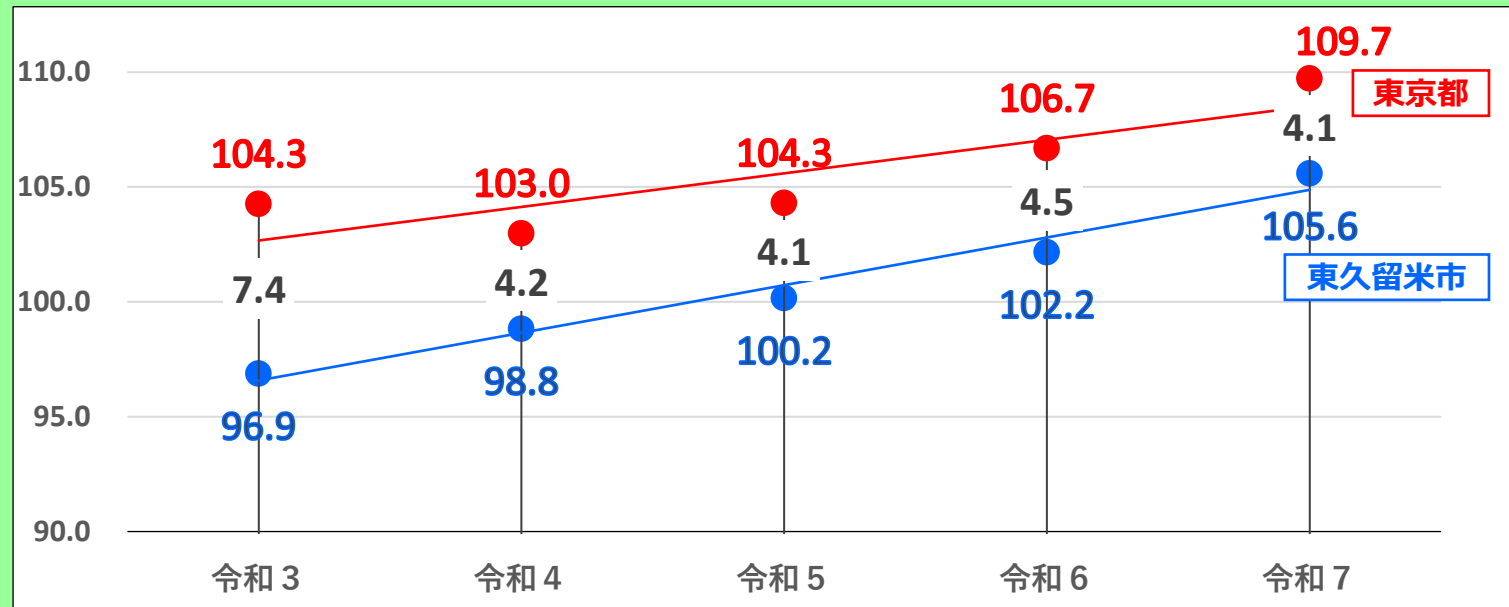
■小学校 ※（近似線の間の数値）東久留米市と東京都の値の差



■現状・課題

- ・東久留米市の値は、令和4年度に全国を上回ったものの、令和5・6年度と全国を下回り、令和7年度に再び全国を上回った。
- ・令和3年度から令和7年度までの経年において、近似線については、東久留米市の傾きの方が東京都の傾きよりも大きく、それぞれの値の差は、8.9ポイントから6.4ポイントへと2.5ポイント縮まっている。

■中学校 ※（近似線の間の数値）東久留米市と東京都の値の差



■現状・課題

- ・東久留米市の値は、令和5年度に全国を上回り、以降ずっと全国を上回っている。
- ・令和3年度から令和7年度までの経年において、近似線については、東久留米市の傾きの方が東京都の傾きよりも大きく、それぞれの値の差は、7.4ポイントから4.1ポイントへと3.3ポイント縮まっている。

東久留米市の値が全国を上回り、近似線の傾きが東京都よりも大きいことから、これまでの学力向上に資する施策や取組を一層充実させれば、東久留米市と東京都の値の差をより縮めることができる

■今後の取組

（1）個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

① 学力調査の実施と結果分析及び成果と課題の公表

➡ 2026中学校英語（4技能すべて）、2027小中全教科C B Tとなることを見据え、I R Tの結果をどのように読み取るか、C B Tの良さを生かして各教科の資質・能力をどのように測るか、全国や東京都の動向に注視

② 授業改善推進プランの活用

➡ 学力調査の結果に基づいた分析がしやすい様式に改善

③ 東久留米スタンダード（学習指導編）の活用と個別最適な学びの充実に資する指導資料の開発

➡ 「『デジタルを活用したこれからの学び』の実現に向けた第一歩」を作成し、各種研修会や指導室訪問等において積極的な活用と共に具体的に説明

（2）小中連携による系統的な指導の推進

④ 小中連携ユニットによる小・中学校の実践共有や協議の実施

➡ 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、ユニット小中学校における課題の共有や解決策の検討及び次年度の教育課程への反映を見据えた校長への具申を目的とし、副校長研修を実施

➡ 「小中連携の日」における授業観察を通じた実践共有や授業改善をテーマとした協議の実施

「デジタルを活用したこれからの学び」の実現に向けた第一歩

令和7年8月27日 東久留米市教育委員会 指導室

本市における授業改善の方向性

東京都教育ビジョン第5次（令和6年3月）では、「デジタルを活用したこれからの学び（以下、「デジこれ」）という。」を推進することが示されています。本市では、予測困難な時代において、よい変化を起こそうと自ら課題を設定し、振り返り、責任をもって行動する力を育成するため、授業改善の方向性として、デジこれの実現に向けた第一歩を進めてまいります。

デジこれの全体像

「(8) デジこれとは、「子供たちの学び」と「デジタル活用」の2つの側面を一体的に示した、部ごとの概念です。

「子供が身に付けるべき3つの能力」
・学びのプロセス（情報収集・整理・分析）
・思考のスキル（仮定・推察）
・デジタルリテラシー（機器・協定で行う操作能力）

「子供が自己決定する学び（子供が学ぶ）」
・個別最適な学び
・協働的な学び
・デジタルを活用した学び

これまでの学び（デジタルなし）
・授業
・個別学習
・協働学習

これまでの学び（デジタル活用）
・個別最適な学び
・協働的な学び
・デジタルを活用した学び

デジこれの実現に向けたマイルストーン

まずは授業時間の2割程度からデジこれを少しずつ取り入れ、試行錯誤の中で理解を深め、授業スタイルを確立していきます。子供は、学習課題や学習手段を部分的に自己決定することから始め、身に付けた3つの能力を活用して自分の学びを自己決定・自己調整できるようにします。

フェーズ0 デジこれの概念を知る
フェーズ1 模範例（第一歩）
フェーズ2 模範例から
フェーズ3 確立・汎用期

子供たちの活動
3つの能力を活用して学びを自己決定する
3つの能力を習得する
部分的に自己決定する

教師の取組
デジこれを部分的に取り入れる
デジこれを試行錯誤する
デジこれを定着・汎用する

フェーズ1 模範例（第一歩）	デジこれを単元の指導計画に位置付ける（例）
導入 第1時 第2時	第1部 第3部
第3時 第4時 第5時 第6時 第7時 第8時	第2部 第4部 第5部 第6部 第7部 第8部

1単位時間のデジこれをデザインする（例）

学びのプロセス	子供の活動	教師の取組
導入 ・学習課題の設定 ・学習の見通しと計画	・事象からの気づき、課題設定、学習目標を設定する。 ・学習手段、学びのプロセスの整理と活用、学習形態等を自ら計画する。	・本時で何を学ぶか、どのように学ぶかを確認する。
展開 ・情報収集 ・整理・分析 ・まとめ ・表現	・教科書、ウェブサイト、学校図書等から自己の課題を解決するために必要な情報を集める。ペーパー、グループなどにより集める。 ・収集した情報を比較・整理、統合させながら整理する。	・一人一人の学習状況を確認し、指導・支援をする。 ・学習が停滞していないか、進捗に遅れているか、進捗した学びではないか。
まとめ ・振り返り	・自己の学びを客観的に見つめる。何を学んだか、どのように学べたか、次にどのような学びに活かすかなど振り返り、記録する。	・一人一人の学習の振り返りを確認する。 ・言葉がけなどの支援をする。

情報リテラシーの習得と活用

★他者参照する
・子供が自己決定した学びをクラウド上で公開・共有する。

★子供の学習状況を把握
・タブレット端末等を活用しながら効率よく子供たちの学習状況を把握し、子供の学習改善を図る。

▲「デジタルを活用したこれからの学び」の実現に向けた第一歩（東久留米市教育委員会）